



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

# プロバスだより

## 第301号

2020 年 12 月 10 日発行

編集・発行：情報委員会

2020～2021年度 テーマ 「コロナから身を守る」「温故知新：ふるきをたずねて新しきを知る」

### 特別例会

日 時：令和 2 年 11 月 12 日(木) 11:00～15:00

場 所：日本閣 2階「シンフォニー」

研修委員長 飯田 富美子

晩秋の好天气に恵まれた一日、庭園が美しい御殿山日本閣において少々寒いくらいの部屋で初めての特別例会を実施いたしました。

参加者数 60 名（内訳：プロバス会員 45 名。ご家族 4 名、日野プロバス会員 7 名、多摩プロバス会員 4 名）。

今年度の研修委員会の最大の命題は「特別例会」をいかに考えるかということにありました。従来の野外研修の形を変えた初めての特別例会であり、コロナ禍にあって実施可能かどうかの判断に苦慮したところでした。「コロナの時代だからこそ何が出来るのかの検討をする」との委員長方針に基づき、研修委員会は鈴木均副委員長に実行委員長に推薦しました。

特に井上先生の話は時宜を得た講演であり、一人でも多くの方に聞いていただきたいという意見も多く出されましたが、コロナ感染拡大もあり人数的にも最適人数(60名)に絞り、理事会の議を経て11月の例会日に特別例会として開催することができました。参加者から「素晴らしい会に参加させていただきありがとうございます」との感想を頂き委員一同安堵いたしました。当日は各委員会のご協力を得てワンチームとして実施できたのも成功の要因かと考えています。ご協力をありがとうございました。

昼食時の会話はできるだけ慎むことを徹底しましたところ、皆さん美味しい日本料理に満足した様子で食事されており、ほっとしました。

井上先生には昼休みを質問時間に当てて頂き多くの皆様のご質問にご回答いただきました。なお、先生の著書「感染症増補版」はベストセラーとして新聞、ネットなどに書評が載っていますのでご覧下さい。



午後の部では大人の朗読会を計画しました。朗読は静かなブームとなっており、耳で観る日本文学、聴く人に感動を届けたいと。コロナ時代にはこれもまた時宜を得たものではないかとの思いから根本照代副委員長を中心に実施して頂きました。

当日の井上先生の講演概要は下記の通りです。

#### 第一部

##### ◆講演

「コロナウイルスと日本人」

国立感染症研究所名誉所員 井上 栄先生

#### 1. 清潔な先進国でも流行する理由

衛生環境が整った先進国でも人から人へと流行するウイルスは、従来の公衆衛生対策が有効でなく、人間特



有の伝播経路を使うものである。新型コロナ感染では、無症状の感染者が喋ることでウイルスをまき散らしている。感染者数が多ければ、ハイリスク重症者の数も多くなる。

#### 2. エアロゾルもウイルスを運ぶ

喋るとき口から飛び出すコロナウイルスは、飛沫（粒子径が10マイクロメートル $\mu\text{m}$ 以上の微小水滴）のほかエアロゾル（ $5\mu\text{m}$ 以下の微小塵埃、空中に浮遊）にも含まれる。

エアロゾルが主として作られる場所は喉にある声帯で。母音の発声で発生する。

大声を出すほどエアロゾル量も多い。エアロゾルにウイルスが含まれるのは、下気道（喉より下）の粘膜細胞で増殖するウイルスの場合のみ（普通の風邪ウイルスは下気道では増えないので、エアロゾルにウイルスは入らない）。

エアロゾルは飛沫より小さくて通常のマスクを通過するが、吸気風速はマスクで低下するので下気道に届くウイルス量も低下する。

### 3. コロナ予防対策

対人距離をとる、大声を出す密閉・密集空間を避ける。会食では食べる時間と話す時間を分ける。

### 4. 日本でコロナが少ない理由

- 1) 日本の社会には、ウイルス伝播を妨げる文化がある。
- 2) 日本語の発音には、飛沫を作る摩擦音、飛沫を遠くへ飛ばす有気音が無い。
- 3) 日本人特有の行動には、天災+天恵の日本列島の風土が関係している。

思考・精神は他国人と大きく異なる。

### 5. コロナの今後

日本人の行動ではウイルスの弱毒化が期待される。不活化コロナワクチンは有効であろう。ワクチンができるまではマスクをして感染を避け、ウイルス弱毒化を期待して待つ。

## <昼食・休憩>

### 第二部

#### ◆朗読鑑賞会

不断草（山本周五郎作）朗読 青羽 美代子先生

青羽美代子先生のプロフィール

昭和 58 年淡谷のり子総合芸能芸術学院卒・その後声優養成所スタジオゼロワン・劇団がらくた工房・青二プロダクション等を経て、平成 5 年歌手井沢八郎（故）と結婚後、井沢の事務所エイトプロモーションに移籍。舞台の司会、ナレーションを中心



に活動。井沢逝去後は朗読を広く伝えるため朗読会、朗読教室など開催されている。著書に「素顔の井沢八郎とともに」がある。

#### 研修副委員長 根本 照代

朗読の会場は昼食後の静かな時間、側面の窓いっぱい広がる紅葉と滝の景色が微かな水音を運び睡魔に襲われそうな空気さえ漂わせていました。



ところが先生の声が会場に広がった途端、みんな身体が固まってしまったように動かず、耳が、先生に吸い寄せられているようで、そのまま 50 分近くの時間が過ぎてしまいました。

さすが「7色の声を持つ」と言われるマルチ声優、すっかり魅了されました。バックの音楽と共に真に文学を「声による演奏」で楽しむことができました。

午前・午後・例会を含めて長時間となりましたが参加者の皆さまには

満せられて（満足感） 味せられて（美味しい食事）  
魅せられて（魅力的な朗読）がご提供できましたでしょうか ……。

## 第 301 回例会

日 時：令和 2 年 11 月 12 日（木）14:30～15:00

場 所：日本閣

出席者：43 名、出席率 73 %

（会員総数 59 名、欠席 14 名、休会 2 名）

### 1. 開 会

野口例会副委員長

第 301 回例会開催を告げ、配付資料の確認が行われた。

### 2. 会長挨拶

田中会長

コロナ騒ぎが未だ収まらない中、本日は万端の処置



をとった上でこのような素晴らしい会場で、秋の研修会並びに11月例会を開催できましたことを心から嬉しく思います。企画から準備、本日の実施に至るまで、

飯田委員長始め研修委員会の皆様、本当に有り難うございました。コロナ騒ぎとは裏腹に、今年の紅葉は例年に増して格別に綺麗なようで、この会場から眺められるお庭の紅葉も素晴らしく、我々の目を楽しませてくれています。前半の研修会では、第1部で井上栄先生の「コロナウイルスと日本人」で正にタイムリーな講演を聴くことができました。第2部では朗読会の第一人者青羽美代子先生の「不断草」（山本周五郎作）の迫力ある朗読の世界に誘って頂きました。従来はバスでの研修旅行形式の秋の研修会が多かったのですが、今回のような特別例会は参加者も多く、大成功であったと喜んでおります。

さて、本日の例会は、矢島会員の叙勲と米寿のお祝い、6名の方々へのバースデーカード、2名の新入会員の入会と嬉しいニュースの多い第301回例会となります。お楽しみください。

### 3. ハッピーコイン披露

河合副会長からハッピーコイン22件の披露がありました。（4～5ページに掲載）

### 4. 米寿の祝い

矢島会員が八十八歳の米寿を迎えられ、プロバスクラブからお祝金が贈られました。



### 5. 新会員紹介

今月より2名の方が入会されました。鈴木英雄さんと五位堂保さんです。

田中会長から会員バッジ、ウェルカムカードが贈呈されました。

### 鈴木 英雄 会員

鈴木英雄さんは日野自動車に長く勤務されておりました。この度、橋本鋼二会員の推薦で入会されました。ご趣味は囲碁と家庭菜園と伺っております。



### 五位堂 保 会員

五位堂保さんは三菱銀行に長く勤務されておりました。杉山友一会員の推薦で入会されました。ご趣味はゴルフと麻雀と伺っております。



当クラブにはゴルフ同好会、囲碁同好会、麻雀研究会がありますので、加入されて交流を深められるよう期待しております。

### 6. バースデーカード贈呈

11月生まれの会員に池田会員手作りのバースデーカードが送られた。

11月生れの会員は6名ですが、当日出席された方は5名でした。（欠席は山崎会員）



左から 寺山、鈴木均、深谷、杉山、東山各会員と会長

### 7. 幹事報告

#### 持田幹事

1) 本日は新しい企画の特別例会でした。大変時機を得たコロナの講演と紅葉を愛でながらの朗読と言う素晴らしい組合せでした。飯田委員長始め研修委員会の皆さまの大変なご尽力で大成功でした。

2) 今月から新しく入会されました鈴木英雄会員、五位堂保会員を心から歓迎したいと思います。同好会活動に参加されて仲間を増やし、クラブ活動に早く慣れて参画されることを望みます。

3) 今年のいちょう祭りはコロナ禍で変則開催となっておりますが、山口副幹事の調整により受付当番が

決まりました。例年同様ご協力をお願い致します。

4) コロナの感染が収まっておりません、第3波が起きているようです。当クラブの活動をするには、十分コロナ対応に注意をして取り組むように重ねてお願い致します。

## 8. 委員会活動報告

### (1) 例会委員会

野口副委員長

1月例会は新年顔合せとなりますが、現状では懇親会は開催できない見通しです。

### (2) 地域奉仕委員会

馬場委員長

本日、来年2～3月開催予定の第25期「生涯学習サロン」のカリキュラムを配布しました。お手元の資料をご覧ください。コロナ禍の影響で会場をクリエイトホールへ変更していること、そのためにサロン形式ではなく講演形式とせざるをえなかったこと、日程が2月の水曜日に2回・3月の金曜日に4回の計6回となっていること、期間中は毎週の開催であること、野外サロンは中止としたこと等、例年に比べて変則的な開催となっています。日程の確保をよろしくお願い致します。なお、会費は上記の通り変則開催であることを考慮し、当クラブ会員2,000円、サロン会員は1,500円の予定です。(前期に会費を納めた当クラブ会員各位へは差額をお返しいたします)

### (3) 交流担当

一瀬理事

年末年始には近隣の日野・多摩プロバスクラブなどとは従来は忘年会、新年会などで交流をしてきたところですが今年はコロナ禍でそれもかありません。心でエールを送るだけとなりそうです。

2022年全日本プロバス協議会第10回総会の八王子受け入れに関して来年1月より準備委員会を設けるべく理事会で決定し、そのプロセスに入りました。12月例会にはその概要を報告いたします。

## 9. プロバス賛歌

起立・黙唱

## 10. 閉会

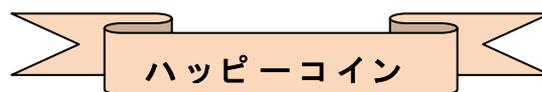
河合副会長

お疲れ様でした。換気の為に寒い部屋で大変だったと思います。

今日は昼食をはさんで、特別例会として、講演と朗読を聞く会が開催されました。いずれも大成功で、今後の特別例会の方向性を示すものとなりました。本事業を中心となって進められた例会委員会の皆様のご労苦を多としたいと思います。

午後の定例会は時間の関係で駆け足の例会となりましたが、何よりの喜びは鈴木氏・五位堂氏両氏の新規入会であります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

コロナ禍も第3の波が懸念されております。会員の皆様には健康に充分気を付けられ、また来月元気にお目にかかりましょう。以上を持ちまして本日の例会を終りとします。



◆矢島会員への一句 秋の叙勲句友先輩おめでとう。

野口 浩平

◆本日、プロバスターズデーカード11枚目に無事ゴールしました。

杉山 友一

◆今日からプロバス仲間となられる五位堂保さんを歓迎して！

杉山 友一

◆上の孫娘が結婚することになりばあばとしてはこの上ない喜びです。若い二人に幸あれと祈るばかりです。

有泉 裕子

◆矢島さん最高名誉、叙勲おめでとう。

荻島 靖久

◆特別例会の講演など楽しみにしています。

高取 和郎

◆今月23日に89歳になります。当クラブの最長老になりました。立川さんが何日か先輩とのことです。お互いにおめでとうございます。皆様これからもよろしく願いいたします。

東山 榮

◆本日は世の中で最大の関心事でありますコロナ感染の講演をありがとうございました。又、この中で11月は7回のゴルフをやります。ゴルフが楽しめるプロバスクラブとこの健康に感謝しています。

持田 律三

◆本日は米寿のお祝いを頂き大変ありがとうございました。又、この度の秋の叙勲において思いがけず長いあいだ公共に尽くした事をもって叙勲の栄に浴することが出来ました。これも皆様方に支えて頂い

た事と心より厚く御礼申し上げます。 矢島 一雄  
 ◆今日の例会に夫婦で参加させて頂きました。ありがとうございました。 竹内 賢治  
 ◆私の友人鈴木英雄さんが入会してくれました。みなさまよろしく。 橋本 鋼二  
 ◆朗読の青羽さん三年前の学習サロンからのおつきあいですが、いつもさわやかで透明感のある声。癒やされます。 一瀬 明  
 ◆野外研修から模様替えした特別例会の第1回目。研修委員会を中心に皆様のお骨おりですばらしい会になりましたハッピー！！ 一瀬 明  
 ◆場所を変えての素晴らしい特別研修会。計画・実行を進めて下さった皆様に心から感謝して。 田中 信昭  
 ◆井上先生のお話を伺って自分の体は自分で守ること、増々健康に気をつけよう。 立川 富美代  
 ◆菊花の頃、東阿部流にて、外務省官邸で茶会を開催しました。各国大使のご来賓を頂き、和やかに盛会のうちに終わりました。 阿部 治子  
 ◆昨年の野外研修廃止に伴い今回が初の企画、楽しみにしていました。研修委員会の皆様お疲れ様でした。 山口 三郎  
 ◆特別例会第一部無事終了。早速、コインを入れます。研修委員の皆様、例会の皆様ご苦労さま。 下山 邦夫  
 ◆新しい企画の「特別例会」の成功を祈って！！ 馬場 征彦  
 ◆今日は多くの方に御参加頂きありがとうございました。成功裡に開催出来ました事、皆様のお陰と感謝しております。 飯田 富美子  
 ◆特別例会すばらしい。 大野 幸二  
 ◆プロバスクラブの例会が定期的開催できることの幸せをかみしめつつ参加。それぞれの任に当られる皆様のご尽力に感謝。 河合 和郎



知的快樂と言われる俳句同好会 東山 榮

元会員の渋谷文雄さんが発起人で、同じく会員の河合和郎さんが、二十数年に亘り俳句道に精進しておられることを知り、ご指導をお願いして、平成23年12月8日に、エルシィの地下レストランを会場と

して第一回目の句会が開かれ、ここに同人会の俳句同好会が誕生しました。



実は当日、私はクラブの例会が終わって渋谷さんと一緒に帰りかけた時、渋谷さんが「私はこれから俳句同好会の発会式に行くから。」とおっしゃったので、私は俳句には今まで全く縁がなかったのに、何故か心が動いて「一緒に行ってもいいですか？」と聞いたら「あぁいいよ、一緒に行こう。」と誘ってくれましたので、会場に行きましたら、先ず、指導者の河合さんと山形、馬場、阿部、飯田の各会員が既におりまして、選句のみの飯田さんと私を含めて7人で発会となりました。

私は以前から俳句には多少の興味はありましたが、知識としてはほとんどなかったもので、まず俳句の手引書を求めて、五七五と季語という有季定型という基本に従い、皆さんとご一緒に、河合宗匠の懇切丁寧なご指導により、渋谷さんの論ずる句作、披講、鑑賞という、頭脳を刺激し知的回路を目指すことに、及ばずながら挑戦し現在に至っております。余談ですが、このことは高齢者には昨今はやりの認知症予防にも効果ありとのこと。現在は毎月クラブ例会前日の水曜日になか安で句会を開いております。

また、定例句会の他に吟行会も計画実行し、小宮公園を皮切りに昇仙峡、武田神社、奥穂高岳と重ね、それぞれ特有の雰囲気の中での句作を満喫しました。

一方、俳句を作ることについて、松尾芭蕉は「夏炉冬扇」と云ったそうです。この意味は夏にたく炉、冬に使う扇のような物で、実際の役には立たないと云ったそうですが、俳人の辻桃子さんは、それなのに俳句を作るのは、自分の心に感じたことを言葉に表現したくなり、一句を作ることによって他の人にも思いを伝えることが出来、作った人の心にしみる言葉であったら、読んだ人も自分の人生を見つめるきっかけになるはずと云っています。このように表現をしながら生きることは、流されずに自分の人生をじっくり見つめながら生きていくということです。と辻さんは云っています。

その後、句会発足後平成26年3月に至り、河合宗匠のお力により2周年を機に会員の精進を纏めた自選句集を発行することになり、各自が今までに詠ん

だ句から 12 句を自選句として、八王子プロバスクラブ俳句同好会初の習作発表句集「夕やけ第一号」が誕生し、発表しました。会員一同満足感でいっぱいでした。そしてこの素晴らしい句集の編集、発行にあたっては河合宗匠のご指導の下に現 7 号まで、田中信昭会員が一手に引き受けて担当されましたことと、裏面にその都度挿絵を頂いた池田ときえ会員に深甚の謝意を表したいと思ひます。

それに、この句会会員に素晴らしい朗報が入りました。我らの句友山形忠顕さん（残念ながら退会）が難関の朝日俳壇において、平成 29 年 2 月と 5 月の二回に亘り、かの有名な金子兜太氏の選を受けられたことで、誠におめでたく、本会と句集「夕やけ」の評価を高からしめたことに祝意と謝意を表したいと思ひます。

また、現在は会場を暁町の料亭なか安に移して、会員は河合宗匠、馬場、飯田、田中、池田、矢島、野口、下山、間宮、石田、東山の各会員 11 名となっております。



平成 31 年 3 月撮影（於 なか安）

なお、毎月の句会の内容につきましては、プロバスクラブにより各自一句ずつ河合宗匠の懇切丁寧な添削を得た俳句同好会便りに掲載されています。

それにしても、残念なのは去年 4 月にご逝去された当会創始者の渋谷文雄（皆空）さんですが、もう少しお元気でいらっしゃったら、素晴らしい句、特に句集夕やけに残る知的快樂の語と、知性溢れるあとがきを拝見できるのにと、今でもかなわぬ願ひをもっております。

追悼句 皆空節卯月の空に消えゆきぬ

### 今月の一句〈十一月の句会から〉

河合 和郎

相変わらずコロナの波が収まらない。同好会では細心の注意を払いながらなんとか句会を継続している。句会は生甲斐の一部でもあるから。

冬薔薇のつぼみ小さく紅深く 池田ときえ

冬薔薇に作者の想いを投影した奥行のある一句。深紅の小さな蕾が秘めるものは限りなく大きい。

新走り枡を溢れて注がれけり 田中 信昭

酒好きには待ち遠しい新酒のシーズンが到来。零れんばかりに注がれる新走りにもう酔っている。

刈田にてへのへのもへじと遊びたり 下山 邦夫

俳諧味のある一句。こういうセンスを大事にしたい。一昔前の農山村の懐かしい光景でもある。

秋晴れに山並み遙か幾重にも 間宮 敏明

天高く澄みわたる青空。遠景には多摩の山並が幾重にも連なっている。清明な景を外連味なく詠む。

冬木立尖りて星に触れむとす 飯田 富美子

作者の新境地か。傑作が生まれた。冬木立と星空の対比。厳しい冬景色の中にロマンがある。

庭隅の緑に浮かぶ石露の花 馬場 征彦

石露の緑濃い葉の茂みに花が浮かんでいるように咲いている。極めて俳句的表現で上手い。

秋の蚊が弱々しくも頬を刺す 野口 浩平

日常の中の小事件。蚊に刺されても一句を成すとはさすが。作者の優しい心根が偲ばれる作品。

団栗の不作や熊の里詣で 東山 榮

今年は熊が里の下りてきて大きな話題に。原因は団栗の不作による餌不足。下五の措辞が優しい。

飛び立たず限り限りか秋の蝶 矢島 一雄

秋蝶の命の終りを見る。翅を震わせてももう飛べない。中七の措辞に工夫があり斬新。

マスク取り記念写真の七五三 河合 和郎

マスクをしたままでは記念写真にならない。「コロナの時代の七五三」の思い出にはなるが。

### 編集後記

301 号は特別例会の記事を掲載しました。

有泉裕子



